

Stockholm ストックホルム

ナチュラルなマテリアルが斬新ユニークなシルバージュエリー

文:矢作智恵子

スウェーデンの森の王様ヘラジカは、英語で別名「ムース」ともいわれる、いわゆる大きなシカのこと。このムースの角を素材に使ったナチュラルジュエリーが今、注目されています。自然をこよなく愛するデザイナーの Gunvor さんが、この素材がちょうどオリーブの形をした真珠のようだったことが制作のきっかけになりました。森を歩いてもなかなかお目にかかれないヘラジカですが、落ちていた角は形や色合いなどもさまざまで、色の薄いベージュからちょっと濃い目のブラウン、そして黒っぽいものまでと、まるで本物の天然石のジュエリーのように。シルバーの清純さとヘラジカ特有のキャラクターとのコンビネーションから生み出されるエコジュエリーは、自然派の女性へのプレゼントとしても喜ばれそう!?



●Jöjje, Svaneberg of Sweden (ヨイエ、スヴァネベリ オブ スウェーデン) <http://www.svanebergae/jojje-svaneberg-of-sweden>

左:ヘラジカの角のストラクチャーがとってもユニーク。右:角の周りをシルバーで囲んだネックレスも魅力的。



左:ヘラジカは、ラクダを思わせる起伏の多い体格と掌のように広がった大きな角が印象的です。

Paris パリ

21世紀のエコな住まいとは?

文:田村有紀

「3匹のこぶたの話は信じてはいけません。わらや木は、耐性ある素材なのです。建築とエコロジーは共存できるのです」。現在、パリ・トロカデロの国立建築遺産博物館で開催中の展覧会で配られている子ども向けの小冊子には、こう書かれています。実際、この展覧会は課外授業にも多く使われている様子。「Habiter Écologique (エコを住まう)」という題名通り、展覧会の趣旨は、世界のエコロジカル建築の昔と今を再現し、現在の都市環境が抱えるさまざまな問題をパネル、ビデオ、そして模型で検証。とりわけ会場内に設けられた6つのサロンで個別に上映されているビデオは、「エコな住まい」を実現させるための実質的&親切的な問題について深く考えさせてくれます。



●「Habiter Écologique(エコを住まう)」はCité de l'Architecture & du Patrimoine(国立建築遺産博物館)で、11/1まで開催。◎月・水-日11:00-19:00(木は21:00まで) ◎火 <http://www.citechailiot.fr> (仏語)

Berlin ベルリン

自転車の街から生まれた、素敵なアクセサリ

文:河内秀子

19世紀末、ドイツ初の自転車専用道路が作られたハノーバーは、いまでは全長550kmの専用道路が整備されている自転車都市。そんなこの土地から、新たに生まれたのは、自転車の古タイヤをリサイクルしたというジュエリー! ハノーバーに拠点を置くジュエリー・デザイナー、クリスティアーネ・ディールが、使えなくなった自転車のタイヤをシックなアクセサリに変身させます。「価値がなくなったものに手を加えて、新しい価値を与えるプロセスがおもしろいの」とクリスティアーネ。タイヤから小さなパーツを型抜きし、手で縫い留めながら形にしていきます。小さい丸形に抜き、花びらのように端を絞ったり、リボン状に切ったものをアジア風の飾り結びにしてみたり……。古いタイヤだったとは思えない繊細なジュエリーは、軽くて、夏の装いにもぴったりです。



クリスティアーネのコレクション「淑女のように」より。淡い紫色を生かした、花びらのようなチョーカー「キャロル」。

●Christiane Diehl (クリスティアーネ・ディール) <http://www.christianediehl.de> (英語)



使い古しの自転車のタイヤを小さなパーツにくり抜いて、手作業で作っている。

●R.O.L.E. Foundation (R.O.L.E.ファウンデーション) <http://www.rolefoundation.org> (英語)

蜂を呼んでハチミツを作らせる巣箱がパークの至るところに置かれています。



左:オーガニックコットンがマンゴの木などを使って染められる行程も見学できます。右:ジャム作りの材料になるスパイスはオーガニックの農園で採取されます。

New York ニューヨーク

美術館で開催中の地球にやさしいデザイン展

文:前田佳菜子

洗練されたプロダクトデザインを展示すること知られるクーパーヒューイット美術館。5番街のアップパーイーストサイドに位置し、結婚式などにも利用される美しい庭園も有名です。現在開催中の「デザイン・フォー・ア・リビング・ワールド」では、異なる分野のデザイナー10人が参加、球に負担にならないサステナブルな素材を使ったデザインが発表されました。デザインそのものもちろん、用いられている素材が注目されていた例えばファッションデザイナーのアイザック・ズラヒは、アラスカで取れる(そして大半は捨られる)鮭の皮を染めて、ドレスや靴をデザイン。ジュエリーデザイナーのテッド・ミューリングは、ヤシの実を彫った植物性の「象牙」を、ジュエリーに取り入れています。



●Design for a Living World (デザイン・フォー・ア・リビング・ワールド) Cooper-Hewitt, National Design Museum 2 East 91st Street New York, NY 10128 ☎212-849-8400 <http://www.cooperhewitt.org> (英語) 2010年1月4日まで開催。

右上・右下:ヤシの葉から作る素材を使って、ケイト・スピードがバッグをデザイン。下:無駄を最小限にしたベニアの椅子。

